



1. 研修旅行（研修旅行担当より）

1 年生（ブライトンホームステイ）



6月8日（日）～13日（金）にブライトン研修旅行を実施しました。今年もイギリス南部の美しい海辺の街・ブライトンにて、6日間のホームステイと語学学校での英語学習を行いました。豊かな自然や歴史ある建物、にぎやかなビーチに囲まれ、生徒たちは多くの刺激を受けながら日々を過ごしました。

今回の研修旅行では、連日天候にも恵まれ、計画していたプログラムはすべて予定通り実施できました。到着初日こそ緊張の面持ちでステイ先に向かっていた生徒たちでしたが、現地の方々の温かなサポートとクラスメイト同士の励まし合いの中で、日を過ごすごとに表情も柔らかくなり、積極的に会話や活動に参加する姿が多く見られました。慣れない環境の中でも、生徒同士で助け合い、支え合う場面が多く見られ、クラスメイトとの絆が一層深まった充実した6日間を過したと感じています。この研修旅行が、生徒たちにとって自分の殻を破る貴重な体験となり、大きな自信につながることを期待しています。



〈生徒の感想より〉

●語学学校の感想

- ・はじめは本当に知らない単語が大量に出てきて大変だったが、自分に身近な環境問題などを扱ってくれていたり、実際に行くアースシップの説明もしてくれたりしたため、勉強になった。また他のクラスの様々な国の人とも会話をすることができた。
- ・自分の英語に自信がなくて、スペルや発音、伝わらなくて困ることもあったけど、今の自分ができる単語や表現で頑張りました。やっぱり英語は苦手と感じることもあったけど、話していて楽しいと感じることのほうが多かったです。普段学ぶ機会のない環境についての英単語を学べて面白かったし、発表も緊張したけど新しい表現の仕方を知れて面白かったです。
- ・自分の語彙数が増えてよかった。今までで一番深く英語に入り浸った時間だったと思う。今まで聞いたこともないような単語もあってとても勉強になった。自分に知識がない環境問題に関しては、結構理解するのが大変だった。



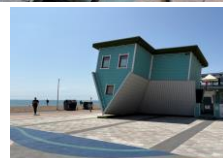
●ホームステイの感想

- ・ホームステイでは、夕食後はなるべく長い時間リビングにいて、ホストファミリーとたくさん話すことを意識した。また、夕食の時間は無言の時間がないくらいずっと話すことができたのでよかったと思う。
- ・私は困ることもなく、スムーズに6日間を終えることができた。ホストファミリーは非常に優しく、質問にもわかりやすく答えてくれた。そのうえ、部屋は心地がよく安心感をもちながら生活することができた。
- ・ホストファミリーはみんな優しく、犬もかわいくて、楽しかったです！私が日本人だからとお米を炊いて、海苔入りの卵焼きを作って、味噌汁を入れた和食朝ご飯を作ってくれたり、カツカレーを作ってくれたりしました。ただ、日本人もカツカレーはスプーンで食べるのに、お箸を渡されたのはびっくりしました。（お箸で食べました）



●研修旅行での学び&印象に残っていること

- ・研修旅行での学びといえば、やはり現地の方との交流です。私は本当に英語が苦手で、こんな私が喋ってもいいのかという苦手意識が奥底に根付いていました。しかし、研修旅行を経て感じた事は、喋れなくても伝えようとすれば相手は嫌な気持ちにならないということです。実際に、チュロス屋さんのおじさんに話しかけられた時に積極的に話したことで、少し仲良くなれたと感じられました。海外の人は思ったより優しいです。沢山話しかけようと思いました。
- ・同じイギリス内でも、ブライトンとロンドンで違いがあることに驚くと同時に、日本も同じ国内でも県が違えば全然違うと納得しました。曇りのイメージが強いイギリスでも、ブライトンはずっと晴れていて、気持ちがよかったです。普段市内や国外旅行に行くときは、両親がバスや電車の指示をしてくれるので、バスが間違っているかもという不安を抱えたことがなかったので、いい経験になったと思います。あと、意外と英語で会話ができる！文法がちよっと違っても、英単語しか出てこなくても、意外と話が通じてうれしかったです。





2, 3 年生 (ベルリン)



高校 2, 3 年生の研修旅行は、6 月 9 日 (月) ～13 日 (金) にドイツ・ベルリンを主な訪問地とし、歴史と文化に触れる 5 日間の行程で実施しました。初日はガトウィック空港からブランデンブルク国際空港へ移動後、市内をバスで回り、日本語ガイドによるウォーキングツアーに参加しました。ベルリンの壁の跡地や現存する壁を実際に目にし、生徒たちは歴史の重みを肌で感じている様子でした。



2 日目はザクセンハウゼン強制収容所跡地を訪れ、ナチス時代に起こったホロコーストについて学びました。午後はクルーズでベルリン市内を水上から眺め、リラックスした時間を過ごしました。

3 日目にはポツダムのサンスーシ宮殿を見学し、その荘厳で精巧な建築に見入っていました。夕食後はテレビ塔に上り、夜景と共に旧東ドイツの歴史にも触れました。



4 日目は冷戦時代に使用されることを想定していた防空壕を見学し、戦争と緊張の歴史を学びました。写真撮影が禁止されていたこともあり、生徒たちは見たものや聞いたことを記憶として刻み込んでいる様子でした。その後、トロピカルアイランドで思い切り体を動かし、互いに交流を深めました。また、川沿いのミュレン通りに 1,316m に渡って続く、現存する最長のベルリンの壁に施されたアートを見学しながら、夕食後ホテルに帰りました。



最終日はストリートアートのワークショップに参加し、個々が創作に集中する姿が印象的でした。完成品はそれぞれの個性あふれるものとなり、お互いに作品を褒め合う姿もみられました。



帰校日はバスのトラブルでお迎えが遅れたことにより帰校が遅れましたが、生徒たちは慌てることなく最後まで落ち着いて行動しました。天候にも恵まれ、特に 2 日目を除き雨に降られることはなく、初夏のベルリンを存分に体感できた研修で、充実したものになりました。

2. 現地校(Sherborne Girls 他)生徒との交流会 (T-CAS 担当より)



6 月 18 日(水) イギリス南部の都市 Sherborne より日本語を学ぶ現地校生が来校し、学園生との交流を行いました。現地校生は学園到着後すぐに高 2 の英語クラスに参加した後ランチと一緒に食べ、午後からは GS コース生が企画した 3 種類のアクティビティーで交流をしました。

午後のアクティビティーは、現地校生に日本文化を体験してもらうという目的で、水曜午後の T-CAS の時間を使い、高 1 GS コース生が立案・計画をし、年度当初から時間をかけて準備を進めてきたものです。アクティビティーの内容は、日本のお菓子体験(餡バターベグル作りと抹茶)、日本文化体験(日本語クイズとお箸ゲーム)、日本の遊び体験(紙飛行機とだるまさんが転んだ)で、3 班に分かれ運営し、Sherborne 生はそれぞれの班を回って 3 種類の体験をしました。

アクティビティー参加後の Sherborne 生からは、「今回の訪問で、より日本が好きになった」「帝京生のホスピタリティーに感謝」などの好意的な意見が聞かれました。また、企画を担当した学園生からは、「準備段階では本当にうまくいか不安だったが、Sherborne のみなさんに楽しんでもらえて良かった」「自分の英語が現地校生に通じたことが、とても嬉しかった」などの感想がありました。

同世代の現地校生との交流を通して、学園生たちも色々なことを学べたと思います。このようなイギリスにいるからこそできる貴重な体験を、今後も沢山行っていきたいと思います。

【日本語クイズ・お箸ゲーム班】



【餡バターベール・抹茶班】



【紙飛行機・だるまさんが転んだ班】



3. 生徒会役員選挙 (選挙管理委員より)



6月23日(月)に生徒会役員選挙がありました。選ばれた新生徒会役員にはこれから学園の中心として、すべての生徒がより充実した学園生活を送れるように、多くの場面でリーダーシップを発揮してくれることを期待しています。



4. 各コースより

サッカーコース

イギリスでは現在サッカーがオフシーズンであるため、帝京ロンドンとして学園近隣の 5 a side のリーグに参加しています。Teikyo UK のユニフォームを身に纏い、四方が壁に囲われたピッチの中で、壁を使ったパスやバックパスなど特殊なルールに初めは困惑していました。また、ピッチが狭いため接触プレーが多く、球際の強さや相手に接触しないようにボールと人が素早く動く流動的なプレーが求められます。これもイギリスならではの経験の一つと考え、楽しみながら活動しています。

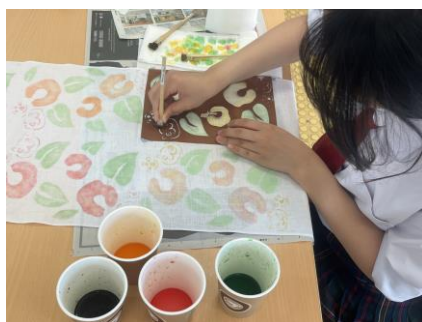


アートコース



アートコースでは、ISCA の授業の一環として Kew Garden を訪れ、今後の課題やテーマに活かせるような植物についてリサーチを行いました。世界遺産にも登録されているパームハウスでは、巨大な熱帯植物を間近に観察することができました。普段目にするのことがない植物の色や形に驚いたり、ギャラリーに展示されていた細密なボタニカルアートに見入ったりと、生徒たちはとても興味深そうに眺めていました。

また、月・水・金の授業では、「グラフィティ×ベルリンの壁」、「型染め」、「油絵」などの作品制作を引き続き行っています。



5.寮便り



今月は、中間考査や研修旅行があったからか、あっという間に月末を迎え、帰国まであと 2 週間ほどになりました。寮生たちは、この 3 か月、親元を離れた状態で「暮らす」ことに日々チャレンジしてきましたので、毎日のように接している私たちスタッフでも成長を感じております。しばらくお会いになっていないご家族の皆様におかれましては、7 月に帰国し、何倍にも成長したお子様と再会するその日をどうぞ楽しみになさってください。

6.保健室より

保健部では昨年度より、生徒の well-being 向上を目指して、学内に果樹園を作り、ガーデニングに接する機会を積極的に設けています。今年度からガーデニング部も発足しました。ガーデニングの国であるイギリスでは、この時期に様々な場所でオープンガーデンが行われており、5月26日と31日に、希望する生徒たちと一緒に本場のイングリッシュガーデンを訪れました。広い敷地に色とりどりの様々な花が咲き、その花の香りに包まれながら、生徒たちは「自然の中にいる感覚が気持ちよかった」「日々の疲れが癒されるような気持ちになった」「学園にもお花がもっとたくさんあったらいいと思った」などの感想を寄せてくれました。現在はガーデニング部の活動の他、週1回、希望する生徒たちとガーデニングを行っていますが、引き続き一人でも多くの生徒に、自然に触れることの心地よさを体感してもらえるよう活動を続けていきたいと思っています。



帝京ロンドン学園の Instagram は [コチラ！▶▶▶](#)

